

第2期川崎市青少年科学館運営基本計画



令和5年3月

川崎市教育委員会青少年科学館

目次

第2期 川崎市青少年科学館運営基本計画の全体像 —————	2
1 第2期川崎市青少年科学館運営基本計画策定にあたって ———	3
1-1 計画策定の背景	
1-2 計画の期間	
1-3 上位・関連計画における位置づけ	
1-4 継続的な課題と環境変化に伴う新たな課題	
1-5 計画策定の体制 市民アンケートの活用	
2 基本理念と基本方針 —————	10
2-1 基本理念	
2-2 基本理念を実現するための4つの基本方針	
3 事業計画 —————	14
3-1 収集保存事業	
3-2 展示事業	
3-3 調査研究事業	
3-4 教育普及事業	
3-5 ネットワーク事業	
4 管理運営計画 —————	28
5 進行管理 —————	32
参考資料	
第2期川崎市青少年科学館運営基本計画 市民ヒアリングに関する資料—————	33

第2期 川崎市青少年科学館運営基本計画の全体像

1 第2期川崎市青少年科学館運営基本計画策定にあたって

- 1-1 計画策定の背景
- 1-2 計画の期間
- 1-3 上位・関連計画における位置づけ
- 1-4 継続的な課題と環境変化に伴う新たな課題
- 1-5 計画策定の体制

2 基本理念と基本方針

2-1 基本理念

市民とあゆむ ^{そら} 宙と緑の科学館

2-2 基本理念を実現するための4つの基本方針

基本方針（1） 開かれた 博物館	基本方針（2） 体験する 博物館	基本方針（3） 育む 博物館	基本方針（4） つなげる 博物館
------------------------	------------------------	----------------------	------------------------

3 事業計画

- 3-1 収集保存事業
- 3-2 展示事業
- 3-3 調査研究事業
- 3-4 教育普及事業
- 3-5 ネットワーク事業

4 管理運営計画

5 進行管理

1 第2期川崎市青少年科学館運営基本計画策定にあたって

1-1 計画策定の背景

(1) 川崎市青少年科学館の概要と特色

川崎市青少年科学館（以下「科学館」という。）は、生田緑地（179.3ha）に立地する川崎市唯一の自然科学系の登録博物館です。昭和46年にプラネタリウム館が開館して以来、学校教育と生涯学習の両面において活用され、特に小中学校の天文教育に大きな成果をあげてきました。昭和57年には本館が完成し、同年に博物館法に基づく登録博物館となりました。川崎市の自然に関する資料を展示する自然科学系の博物館としての機能を充実し、宇宙と身近な自然について学ぶことができる博物館としての活動に取り組んできました。

昭和58年にスタートした市民とともに取り組む川崎市の自然環境調査は、今日まで継続的に実施し、「市民と歩む博物館」活動の根幹となっています。また、子どもたちの理科離れに対応して、「21世紀子どもサイエンス事業」等、科学を楽しく学ぶ機会の提供にも力を入れてきました。

科学館は、生田緑地の深い緑に囲まれた場所に立地しており、自然を学習する生きたフィールドとなっています。また、生田緑地には日本民家園、岡本太郎美術館、生田緑地ゴルフ場、藤子・F・不二雄ミュージアム等、個性と魅力あふれる施設が設置されており、市民の文化活動やレクリエーション活動の拠点になっているとともに、平成23年3月には「生田緑地ビジョン」が策定され、豊かな自然に恵まれた生田緑地の新たな魅力の創造や施設間連携事業の実施等、各施設の魅力を高めるための方向性が示されました。さらに、平成24年3月には科学館の改築整備と生田緑地全体の整備が終了し、平成24年4月には、科学館がリニューアルオープンし、生田緑地ビジターセンターが新しくオープンしました。平成25年4月からは、施設運営に指定管理者制度を導入し、緑地と緑地内に立地する日本民家園、岡本太郎美術館を含め、横断的な管理運営を進めています。令和3年には、開館50周年の節目を迎え、様々な年代とニーズに対応した事業として記念式典や企画展示、講演会、記念対談等を実施しました。

このように、科学館は、自然や天文の体験等を通じて市民に学習機会を提供し、川崎市における自然科学の学習拠点としての役割をベースに、科学技術に関わる人材育成機能や生田緑地の魅力の発信拠点としての役割を担っています。また、魅力と活力にあふれる地域（まち）づくりに向けて、地域に根ざした観光振興の拠点としての役割も期待されています。

(2) 計画策定の背景と趣旨

博物館法第8条では、文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものと定めており、平成23年12月20日に文部科学省から告示された「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」では、博物館は、その設置の目的を踏まえ、資料の収集・保管・展示、調査研究、教育普及活動等の実施に関する基本的な運営の方針を策定し、公表するよう努めることが示されています。

科学館では、川崎市青少年科学館運営基本計画（以下「第1期運営基本計画」という。）を、新たな施設機能を十分に活かした科学館事業における中長期計画として、平成24年3

月に策定しました。

この計画は、おおむね 10 年間で計画期間としていることから、第 1 期運営基本計画策定以降の成果や課題等を整理しつつ、次の 10 年に向けて科学館がめざすべき方向性を示し、博物館活動の充実により、さらなる魅力向上を図るため、新たに第 2 期川崎市青少年科学館運営基本計画（以下「第 2 期運営基本計画」という。）を策定します。

なお、第 1 期運営基本計画では、施設のリニューアルにともない展示スペースやプラネタリウム設備の活用についても定めておりましたが、第 2 期運営基本計画においては、リニューアル後の施設や設備を引き続き活用しながら事業を展開していくため、本計画では科学館における今後の博物館事業の方向性や取組等について策定するものです。

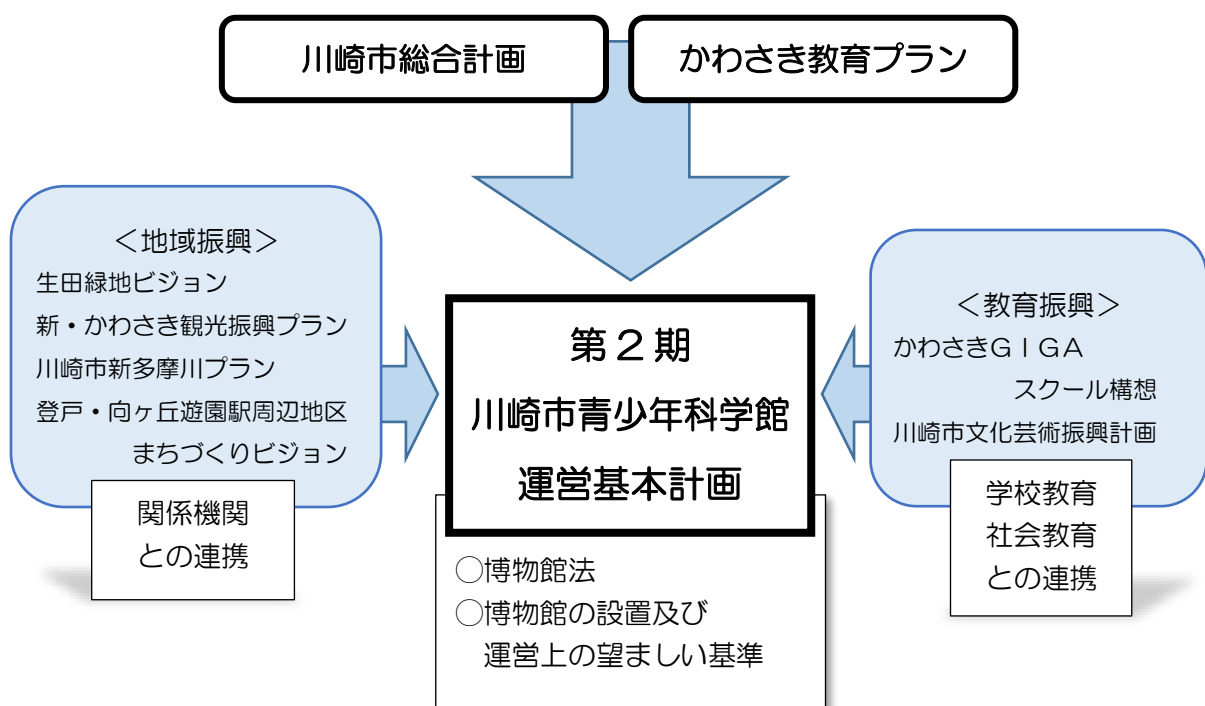
1-2 計画の期間

第 2 期運営基本計画は、令和 5 年度から令和 14 年度までのおおむね 10 年間で計画期間とします。これに基づき、単年度ごとに事業計画を作成し、目標の達成度や進捗状況を市民代表、学識経験者、家庭教育関係者等からなる川崎市社会教育委員会議青少年科学館専門部会（以下「専門部会」という。）の委員と確認しながら博物館事業を推進していきます。

1-3 上位・関連計画における位置づけ

「青少年科学館運営基本計画」は、「川崎市総合計画」や「かわさき教育プラン」を上位計画として「生田緑地ビジョン」等、関連する様々な計画との整合を図りながら社会情勢の変化等に留意し、必要に応じて見直しを行うなど適切に対応していきます。

【第 2 期運営基本計画の位置づけ】



1-4 継続的な課題と環境変化に伴う新たな課題

第1期運営基本計画に基づく中長期的取組に対するおおむね10年間の成果を踏まえた、継続的な課題や、新型コロナウイルス感染症の影響や新しい生活様式への対応、持続可能な開発目標（SDGs）の社会への浸透、GIGAスクール構想等の急速なデジタル化の進展など、科学館を取り巻く環境の変化に的確に対応していく必要があります。

(1) 第1期運営基本計画に基づく成果と継続する課題

博物館法では国民の教育、学術及び文化の発展に寄与するという目的を達成するため、博物館が実施する事業を定めています。科学館では、それらを次の5つの事業に区分し、実施してきました。平成24（2012）年度以降に実施された第1期運営基本計画に基づく事業毎に、おおむね10年間での成果と今後継続する課題について整理しました。

①収集保存事業

【成果】

収集した自然資料を体系的に電子台帳へ整理することで、資料データを国内外へ情報発信し、他の博物館への資料の貸出などの効果的な活用に取り組みました。プラネタリウム番組の制作資料や画像のアーカイブを作成し、番組制作の効率化や解説のスキルアップにつながりました。科学実験教室やワークショップに関する資料の収集・管理に努め、ノウハウの共有化につながるよう実践事例集を作成しました。

【課題】

調査・収集から台帳化の整理までの収集保存の業務の効率化や資料の活用を推進するため、デジタルデータ化をさらに進めるとともに、教育普及に携わる市民活動の支援につながるよう、科学実験教室等の実践に関する資料収集、整理及び共有化の促進を図る必要があります。

②展示事業

【成果】

館内常設展示では、生田緑地ギャラリーや四季ごとの動植物紹介など、リアルタイムな情報発信を行い、生田緑地を利用する市民の興味関心の向上につながりました。

最新鋭のプラネタリウム投影機であるMEGASTAR-Ⅲ FUSIONを活用し、毎月テーマを変えた生解説の一般投影や、プラネタリウムから実体験へとつながる「星を見るタベ」等の天体観測会を実施し、市民の天文分野に関する興味関心を高めました。

市民の科学への興味関心を高めるため、館内展示スペースを活用して、光触媒などの最新科学技術を紹介する企画展やワクワクドキドキ玉手箱を活用した科学工作写真展を開催しました。

【課題】

主に来館された市民から動植物に関するレファレンスを多くいただくため、市民のニーズに対応した展示の更新頻度や内容の充実は、今後も展示事業における重要課題となります。また、社会状況・生活様式への対応が継続して求められることを踏まえ、従来の展示手法の見直しやSNSを活用した情報発信をさらに進めていく必要があります。

③調査研究事業

【成果】

市民団体との協働で市域の自然環境調査を行い、成果を報告書や刊行物にまとめ、市民への周知や自然環境への興味関心の向上につながりました。太陽や天文現象の観測を継続した他、研究機関との共同観測を行い、学会等で発表しました。また、市民協働による星の見え方調査を継続実施し、市民の天文・宇宙への関心を高めました。

市民団体と科学館との協働による調査研究により、多くの分野に渡って、効果的な実験セットの開発につながりました。

【課題】

調査研究成果の向上を図るため、調査の実施にあたっては市民への積極的な周知を行い、協働による調査研究をさらに推進し、調査研究の継承と計画的な拡大を検討する必要があります。

また、事業効果の向上を図るため、利用する学校等のニーズを踏まえた教材や実験セットを、科学館と市民団体が協働で開発する必要があります。

④教育普及事業

【成果】

毎週末や祝日を中心に自然観察教室や科学実験教室を開催するなど、自然・天文・科学の各分野で様々な年代のニーズに対応した教育普及事業を行ってきました。

多くの教育普及事業では、市民ボランティアや市民団体が指導や支援の役割を担い、科学館事業が市民同士の学び合い、交流する場となりました。

プラネタリウム学習投影や自然観察解説を継続実施し、学校の理科教育を支援してきました。

【課題】

週末に単発型の自然観察教室や科学実験教室を頻繁に実施してきましたが、定期的・継続的な観察会の実施など、普及事業の形態を見直し、市民の生涯学習意欲に対応していく必要があります。

教育普及事業を協働で行う市民ボランティアのスキルアップは継続した課題であり、科学館で活躍する自然・天文・科学の市民ボランティアや団体の育成・研修等の支援を図る必要があります。

また、地域の博物館の役割である、学校のニーズを反映した学習支援の在り方を考え、事業の充実を図る必要があります。

⑤ネットワーク事業

【成果】

近隣大学や県内の科学教育施設、最先端技術をもつ市内企業等と、科学館の専門性を活かした共催事業を行い、利用する市民にイベントや展示を通じて、学習・交流の機会を創出しました。生田緑地及び周辺地域の魅力あるまちづくりにつなげるため、多摩区行事や地域イベントの支援に取り組みました。

【課題】

生田緑地及び周辺地域の魅力づくりにつなげるため、事業効果を検証しながら必要に応じて、科学館としての支援の在り方を検討し、各施設が連携した事業をさらに推進する必要があります。

(2) 科学館を取り巻く環境変化に伴う新たな課題

①新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症による影響は社会・経済の多方面に及んでおり、科学館でも臨時休館など大きな影響を受けました。ウィズコロナ・ポストコロナの時代を見据えた、社会状況・生活様式の変化に対応した事業を実施していく必要があります。

②SDGs・脱炭素社会の実現に向けた取組の進展

「教育」や「陸上資源」など、持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、CO2 排出実質ゼロ実現に向けて、生涯学習や環境教育により市民の意識を高めるため、生物多様性や SDGs を意識した事業を推進する必要があります。

③社会のデジタル化の進展

かわさき GIGA スクール構想やスマートフォン等の個人端末の急速な普及への対応、SNS やホームページといったオンラインを活用した事業展開、AI の活用など、急速に進展するデジタル化に対応した事業を推進する必要があります。

④博物館法改正を踏まえた取組

令和 4 年 4 月に博物館法が改正され、令和 5 年度から施行されます。今後は、博物館の基本的な使命である事業に加え、他の博物館等と連携すること、及び地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り、地域の活力の向上に取り組むことが求められています。

また、博物館登録制度※が見直され、外形的な基準に加え、博物館としての活動も考慮した審査が行われるため、博物館としての水準の維持・向上を図る取組が一層必要です。

※登録博物館…学芸員の必置や開館日数等の要件を元に、都道府県等が登録した施設。

⑤川崎市の新たな 100 年に向けた取組

令和 6 年に迎える市制 100 周年や、科学館を含む生田緑地をコア会場の一つとする全国都市緑化かわさきフェアの開催を契機に、多彩で魅力ある観光資源として科学館の価値を一層高めると同時に、市民との連携・協働の取組をより一層推進することにより、シビックプライドの醸成を図り、新しい魅力や価値を生み出していく必要があります。

これまで科学館が行ってきた川崎の自然・天文・科学に関する資料の収集・保存、展示、調査研究、教育普及といった博物館の基本事業に加え、取り巻く環境の変化や博物館法の改正など、これからの博物館に求められる役割や機能の強化を踏まえて、第 2 期運営基本計画を策定していくことが必要です。

1-5 計画策定の体制

第 2 期運営基本計画を策定するにあたり、専門部会において「第 2 期川崎市青少年科学館運営基本計画検討会議」を開催します。会議等を踏まえ、計画案をとりまとめ、説明会やパブリックコメント手続を通じて、広く市民の方々からの意見を聞きながら第 2 期運営基本計画を策定します。

市民アンケートの活用

第2期運営基本計画の策定にあたり、市民の声を参考とするため、令和4年度に来館者や成人、市内の小中学生を対象に、市民アンケートやヒアリング事業を実施しました。

- 来館者に紙面アンケートの協力を依頼する調査員調査
- イベント来館された成人を対象とした紙面アンケート
- 校外学習で当館を利用した小学生や教員対象のGIGA 端末を活用したアンケート
- 小中学生を対象に、自然・天文・科学の体験活動後、ワークショップ形式によるヒアリング事業

○来館者への調査員調査（令和4年7月23日 100名実施）

来館目的や頻度、満足度、改善点などを紙面アンケートにて調査員調査を実施しました。調査時の来館目的としては「プラネタリウムの見学」が半数以上を占め、「展示見学」「生田緑地へ来たついで」の順で回答をいただきました。生田緑地内の中央芝生広場に面し、入館無料の施設として立ち寄りやすさが見受けられました。

満足度や感想として「館内はきれいで気持ちが良い」「展示の説明がわかりやすい」「プラネタリウムがおもしろい」とポジティブな印象の回答とともに、「展示の説明がわかりにくい」「プラネタリウムがおもしろくない」というネガティブな意見もありました。

来館頻度では、当館を2回以上利用したことがあるリピーターが7割以上と大半を占め、来館者の6割以上が家族利用でした。月ごとに変わるプラネタリウム番組や季節等に合わせたリアルタイムな展示内容の更新によって、リピーターも楽しめる科学館運営への参考になりました。

○成人対象の紙面アンケート（令和4年8月7日～28日 50名実施）

科学館では小学生を中心に多くの子どもたちがイベント等で来館・利用していますが、成人の意見を今後の事業計画の参考にするため、興味関心のある自然科学分野や要望などを紙面アンケートにて調査しました。「自然・天文・科学への興味」や「今後の科学館への要望」等に関する回答をいただきました。

結果から成人の方々も、子どもたちが実験や工作に興味があるように科学分野や惑星や星座などの天文分野に興味が高いことが見受けられました。今後の科学館への要望としては、「大型望遠鏡の操作」や「星空の撮影」、「サイエンスショー」など、科学館での体験に価値を求める意見をいただきました。

○小学生・教員対象のアンケート調査

（令和4年6月7日～17日 回答 小学生962名 教員72名）

科学館を校外学習として利用経験がある市内小学生を対象としたアンケートを実施しました。市内14校の小学校5年生にかわさきGIGAスクール構想に基づき各校に配当されている端末を活用したアンケートを実施し、962件の回答をいただきました。子どもたちの視点から「科学館の印象」「理科分野での興味関心」「科学館に期待すること」等を調査しました。

科学館への印象については、「プラネタリウム鑑賞の楽しさ」や「施設の清潔感」「展示のわかりやすさ」に高い評価をいただきました。これに対して「プラネタリウムの解説」や「興味関心（ニーズ）に沿った展示であること」への評価は、前述の評価の高さには達していないことから、「学校対応時の解説内容や伝達方法の向上」「来館者のニーズをふまえた展示の更新」など、今後の参考となるものでした。

理科分野での興味関心については、回答数の上位 5 件「海洋生物、科学実験、動物、惑星・星座、植物」という結果から自然分野への興味が高いこともうかがえました。今後の科学館へ期待すること（やってみたいこと）では、プラネタリウムや大型望遠鏡の操作、バックヤード見学、自然観察などの「具体的な体験や活動」への興味が高いという結果が出ました。

「川崎市域を対象として展示内容の充実」「時事の天文現象を発信すること」「主体的に参加できる科学実験教室」など、今後の事業の参考となる調査結果が出ました。都市部では出会えない星空を投影する大きなプラネタリウムや望遠鏡の操作、緑地内にある博物館施設ならではのバックヤードや観察会など、「科学館の特性を活かした体験」に子どもたちの興味（ニーズ）があることから、教育普及事業に役立ててまいります。

また、小学生対象アンケート実施校の教員から当館での引率経験や学習支援への要望等について調査を行い、72 名から回答をいただきました。引率経験では、利用率が高い順に「プラネタリウム利用」、「地層観察」、「林の観察」となりました。常設展示の自由見学利用は約半数という結果から、教科学習とのつながりや発展性をもたせるなど、今後の展示の参考となる意見をいただきました。

〇ワークショップ形式によるヒアリング事業

（令和 4 年 7 月 10 日実施・小学生 14 名、7 月 31 日実施・中学生 16 名）

紙面や端末機器を活用したアンケートの他に、直接来館・体験した子どもたちの声を計画策定の参考とするため、小中学生対象のヒアリングワークショップを実施しました。令和 4 年 7 月に小学生・中学生それぞれを対象としたワークショップを開催し、様々な意見をいただきました。当日は、常設展示の解説やバックヤード見学、科学工作やプラネタリウム鑑賞など、科学館の自然・天文・科学の各分野を体験して、「体験して楽しかったこと」や「これからの科学館でチャレンジしたいこと」など、たくさんの感想や意見を参加者同士で交流しました。



小学生の参加者からは、当日体験した自然・天文・科学分野への感想や、「虫や木のことを知りたい」「もっとじっくり星や植物を見てみたい」と、今後科学館で教えてほしいテーマや要望をいただきました。中学生の参加者からは、当日の感想とともに「展示解説とともに館内を回りたい」「ナイトミュージアムに参加してみたい」とより具体的な体験に関する意見をいただきました。



2 基本理念と基本方針

2-1 基本理念

市民とあゆむ ^{そら} 宙と緑の科学館

(1) 市民と連携した科学館事業

昭和 57（1982）年に自然科学系の登録博物館となった科学館は職員が少なく、地域の博物館としての収集保存・調査研究事業を十分に進めることが困難でした。そこで、市民との協働による自然調査活動として昭和 58（1983）年に公募によるタンポポ調査が行われました。この取組を契機に、現在も地域の自然環境を調査する市民団体が誕生しました。



基幹事業であるプラネタリウムの設備では、平成 15（2003）年、川崎市出身のプラネタリウムクリエイターによる世界最新鋭の投影機 MEGASTAR-II が導入されました。また、平成 24（2012）年のリニューアル時には 1,500 万個の恒星とコンピュータグラフィックの映像が融合した、世界最高水準のリアルな星空を投影する MEGASTAR-III FUSION へと一新されました。プラネタリウムは「見る」だけでなく、「使う」ものとして、プラネタリウム番組の企画・制作に挑戦するワークショップなど、様々な天文教室に活用されています。また、実際の星空を観測する夜間イベントでは、当館の天文講座を修了した市民ボランティアが天文サポーターとして、運営や解説に館職員とともに取り組んでいます。



昭和 50 年代から館職員や外部講師を招聘して、科学教室や工作教室を開催してきました。平成 14（2002）年からは川崎市経済局と教育委員会共催による科学体験指導者養成講座「かわさき科学塾」が開催され、養成講座修了生による科学市民団体が誕生し、現在まで館内イベントや市内学校での出前教室を担当しています。その後も館内養成講座の修了生による市民団体が複数設立され、子どもから成人まで様々な市民ニーズに対応した教育普及事業の中核を担っています。



(2) 50 年のあゆみとこれから

令和 3（2021）年、開館当初から地域の方々をはじめ、多くの市民に支えられ、科学館は開館 50 周年を迎えました。様々な記念事業を通じて、地域や市民に支えられた 50 年の歩みを振り返ると共に、今後も市民に親しまれ、「知ること」「学ぶこと」が楽しめる魅力的な科学館となり、より多くの市民が交わりつなげる場としての取組の重要性を確認しました。



そこで、第2期運営基本計画においても、市民との連携・協働の取組をより一層推進することにより、市民の多様な生涯学習意欲への対応を図り、持続可能な社会に貢献できる人材の育成を通じて、地域の多様な主体がともに担うまちづくりを推進するため、「市民とあゆむ 宙と緑の科学館」を運営の基本理念とします。

2-2 基本理念を実現するための4つの基本方針

市民に開かれた地域の博物館として、天文（宙）と川崎の自然（緑）を題材に、体験と知識の両方を大切に、本質を探究する学びの場を提供するとともに、学校教育との連携等により子どもたちの自然科学への関心を高め、科学的な見方や考え方を養い、地域の多世代が交流し、学び合う地域づくりにつなげることで基本理念を実現すべく、次の4点を基本方針として定めます。

(1) 開かれた博物館

①市民と社会に貢献する活動

博物館活動の基盤である収集保存、調査研究活動を計画的に実施して、川崎市の貴重な財産である自然や天文に関する資料・情報を広く市民に提供し、充実した展示事業や教育普及事業を展開します。

②快適で安全・安心な施設

社会状況・生活様式の変化をふまえ、多くの市民が安心して利用でき、使いやすく親しみのもてる施設であるために、利用者の視点に立って施設環境を整え、生田緑地利用者の憩いの場、市民の活動拠点、子どもたちが楽しく学べる場所として、多様な利用者のニーズに応えるサービスを提供します。

(2) 体験する博物館

①自然体験

緑地に囲まれた立地を活かして、本物の自然に触れる観察や体験等の機会を提供し、自然への親しみや理解を深め、自然科学に興味を持つきっかけをつくります。

②天文体験

プラネタリウムの星空と本物の星空を結び、投影と天体観察を中心とした天文学習活動を展開することで、宇宙と科学に対する興味や理解を深めます。

③科学体験

実験や工作等、実体験と交流を通じて科学に触れる機会を創出し、市民の科学への興味や科学的思考を育みます。

(3) 育む博物館

①学校教育支援

理科教育を支援する博物館として、川崎市内外の小・中・高等学校等と密接に連携し、学習投影や実験教室、自然観察等を通じて、児童生徒の自然科学への理解や興味を育みます。

②次世代育成

自然科学に興味を持つきっかけづくりから探究心や創造性を育むものまで、子どもたちの成長と自己実現を支援する学習活動を展開します。

③生涯学習・社会貢献活動支援

市民の生涯学習活動を支援し、自己実現や社会貢献につながる活動の場をつくり、学習内容や方法の提示等の支援体制の充実を図ります。

(4) つなげる博物館

①人をつなげる

生田緑地で活動する市民団体をはじめ、川崎市で様々な活動を展開する市民と連携し、相互に支援しながら、情報交流の活性化や活動の充実を図ります。

②まちをつなげる

地域の市民・団体・企業等と連携し、生田緑地や多摩区をはじめとする川崎市の地域振興や文化振興を通じたまちづくりに貢献することをめざします。

③学びをつなげる

生田緑地内の文化施設をはじめとする類似・関連施設や大学等の機関と連携・協働し、収集保存、展示、調査研究、教育普及等の活動を充実させ、市民サービスの向上を図ります。

【基本理念と基本方針】

基本理念

市民とあゆむ ^{そら} 宙と緑の科学館

基本方針

基本方針（1）
開かれた
博物館

基本方針（2）
体験する
博物館

基本方針（3）
育む
博物館

基本方針（4）
つなげる
博物館

博物館法制度の今後の在り方について（答申）〈抜粋〉

「博物館法制度の今後の在り方について」は、文化庁文化審議会にて 2021 年 12 月 20 日付けで答申として取りまとめられ、この答申では、これからの博物館に求められる役割・機能について 5 つの方向性が示されています。

- ①「守り、受け継ぐ」
資料の収集・保管と文化の継承
- ②「わかち合う」
資料の展示、情報の発信と文化の共有
- ③「育む」
多世代への学びの提供
- ④「つなぐ、向き合う」
社会や地域の課題への対応
- ⑤「営む」
専門的人材の確保、持続可能な活動と経営の改善向上

科学館の第 2 期運営基本計画で定める 4 つの基本方針は下の表のとおり、これら 5 つの方向性に対応しています。

「これからの博物館に求められる役割・機能」に対する科学館の基本方針の該当項目

博物館法制度の 今後の在り方について 今後必要とされる役割・機能 (5 つの方向性)	科学館 4 つの基本方針			
	開かれた 博物館	体験する 博物館	育む 博物館	つなげる 博物館
①「守り、受け継ぐ」	○			○
②「わかち合う」	○			
③「育む」		○	○	○
④「つなぐ、向き合う」			○	○
⑤「営む」	○		○	

3 事業計画

科学館の基本理念を実現するため、博物館法に定められた事業について、継続的な課題や環境変化に伴う新たな課題を踏まえながら、4つの基本方針に基づいて計画・実施していきます。

【事業計画の体系】

基本理念 市民とあゆむ ^{そら} 宙と緑の科学館			
1 基本方針（1） 開かれた博物館	2 基本方針（2） 体験する博物館	3 基本方針（3） 育む博物館	4 基本方針（4） つなげる博物館

事業計画

各事業における主要な基本方針

3-1 収集保存事業

(1) 自然分野	①川崎の自然についての資料収集と保存・管理	1
(2) 天文分野	①天文についての観測データの収集と保存・管理	1
	②プラネタリウムについての資料収集と保存・管理	1
(3) 科学教育分野	①科学実験についての資料収集と保存・管理	1

3-2 展示事業

(1) 自然分野	①川崎の自然を伝える展示と情報発信	1
(2) 天文分野	①川崎方式のプラネタリウム投影	1
	②基礎的な内容から最新情報まで反映した天文展示	1
(3) 科学教育分野	①市民協働の科学工作展示	1

3-3 調査研究事業

(1) 自然分野	①川崎市域の生物調査	1	4
	②自然について市民の興味関心を高める調査研究の実施	1	
(2) 天文分野	①天文現象についての調査研究の継続	1	4
(3) 科学教育分野	①科学について市民の興味関心を高める調査研究の実施	1	4

3-4 教育普及事業

(1) 自然分野	①展示解説やワークショップ	2	
	②川崎市域での自然体験活動	2	3
	③学校支援	3	
	④人材育成	3	
(2) 天文分野	①市民や児童生徒が参加できるプラネタリウム番組制作	2	3
	②プラネタリウムを活用した教室・講座の開催	2	
	③プラネタリウムを活用した他分野との融合イベント	4	
	④アストロテラスでの天文体験	2	
	⑤学校支援	3	
	⑥人材育成	3	
(3) 科学教育分野	①市民の多様な学習ニーズに応える実験教室の開催	2	3
	②21世紀子どもサイエンス事業の推進	2	3 4
	③学校支援	3	

3-5 ネットワーク事業

(1) 展示・企画	4
(2) 収集保存・調査研究	4
(3) 学習支援	3
(4) 地域振興	4
(5) 生田緑地内	4

3-1 収集保存事業

標本やデータ等の所蔵資料を分類・整理して適切な保存管理を行い、川崎市域の貴重な自然史資料・天文資料を次世代へ確実に継承します。

また、データベース化した所蔵資料の公開や、資料を使った講座の開催等により、所蔵資料の効果的な活用に努めます。

収集保存の業務の効率化やデジタルデータ化をさらに進め、改善を図ります。

(1) 自然分野

①川崎の自然についての資料収集と保存・管理 【基本方針(1)】

川崎の自然の全体像を把握できるように、川崎に縁があるものを中心に幅広く自然に関する資料を収集するとともに、体系的に整理・分類しながら長期にわたって保存します。また、収蔵資料を必要な時にいつでも公開できるようにデータベース化を推進することで、標本等資料を次世代へ引き継いでいきます。

●実施事業

川崎市域の動植物等の資料を収集するとともに、収蔵資料をより効果的に活用するため、台帳整備等で資料をデータベース化し、地球規模生物多様性情報機構（GBIF）への情報提供や関連する博物館への資料の貸出しを継続します。

(2) 天文分野

①天文についての観測データの収集と保存・管理 【基本方針(1)】

観測データなど天文についての調査によって得られた資料を適切に整理、保存してデジタル化、データベース化を推進することで、次世代へ引き継いでいきます。

●実施事業

川崎の星空や太陽をはじめとするこれまでの観測で得られた資料や、その他天文に関する資料を整理しデジタル化、データベース化して公開します。

②プラネタリウムについての資料収集と保存・管理 【基本方針(1)】

開館以来行ってきた職員の制作、解説による川崎方式のプラネタリウム投影を継続し、発展させるため、番組や解説資料のアーカイブ化を推進することで、次世代へ引き継いでいきます。

●実施事業

今後の効率的・効果的な番組づくりに活かすため、毎月制作している一般向け番組や子ども向け番組等のプラネタリウム番組制作時に収集した資料や素材、番組プログラム等のアーカイブを作成します。

(3) 科学教育分野

①科学実験についての資料収集と保存・管理 【基本方針(1)】

学校教育の支援や科学ボランティア人材の育成等、市民活動や生涯学習の充実に役立てるため、科学実験教室のプログラムや実験・工作に関するノウハウを整理・保存し、データベース化を推進することで、次世代へ引き継いでいきます。

●実施事業

様々なテーマの科学実験教室の事例や、開発した実験の手法について、資料をデジタルデータとして収集・保存します。

科学館開館 50 周年記念事業

たくさんの市民に支えられながら、令和3年度に 50 周年を迎えることができました。ここでは、開催した記念事業の一部を紹介します。

企画展「川崎の生きもの」

50 周年に制作された刊行物「川崎の生きもの」に関連して、川崎の自然環境、川崎に生息している生きものについての企画展を開催し、川崎の自然を伝えました。



記念番組「かわさきの星空 50 年」

科学館 50 年の歴史と、天文学の発展、「ハレー彗星の接近」などの天文現象とともに紹介する記念番組を制作・投影し、科学館のあゆみを紹介しました。



かわさきぶりんフェスティバル

科学館で活動している科学市民団体と職員によるワークショップを複数開催するサイエンスフェスティバルを開催し、多くの小学生に科学の楽しさを伝えました。



「開館 50 年のあゆみ」の刊行

50 周年記念事業として、開館から現在までの科学館の施設や事業の変化を伝える記念誌を発刊し、「川崎の生きもの」と同様に館内ショップで販売しました。



3-2 展示事業

地域の自然に親しみ、知識を深めることができるように、身近なフィールドである生田緑地や川崎の星空と連動した展示を行います。

市民が最新の情報に触れられるよう、日々移りゆく自然の様子や最新の研究成果等を反映した展示の更新を行います。利用者の疑問や興味関心にきめ細かく対応した展示解説を行い、自然や天文、科学等へのより深い理解と関心につなげます。

また、社会状況・生活様式の変化を踏まえた展示の見直しや、新たな展示手法の一つとしてSNS等のオンラインツールを活用した情報発信をさらに進めていきます。

(1) 自然分野

①川崎の自然を伝える展示と情報発信【基本方針(1)】

川崎の自然をテーマにした展示、自然についての情報発信、多様な市民ニーズを踏まえた展示物の解説や更新をするとともに、生田緑地内に有する立地を活かし、展示から野外での体験・観察へと誘い、市民の自然への興味関心へとつなげることで、生物多様性への関心を高めます。また、社会状況・生活様式の変化に対応した展示を行います。

●実施事業

展示を見る「学び」に加え、生田緑地の自然を体験する「観察」へとつなげられるよう、季節に合わせた展示を行うとともに、SNS等を活用した生田緑地の自然についての情報を発信します。また、展示手法についても社会状況・生活様式の変化に対応します。

(2) 天文分野

①川崎方式のプラネタリウム投影【基本方針(1)】

職員が企画・制作し、肉声で解説する川崎方式のプラネタリウム投影により、投影機の機能を引き出した分かりやすい演出や最新の天文情報を反映した解説を行うとともに、天体観察スペース・アストロテラスと緊密に連携することで、実体験によって市民の天文への興味関心を高めます。

●実施事業

市民のニーズを参考にしながら月ごとにテーマを変える一般向け番組を制作し、投影します。また、子ども向け番組やMEGASTAR-Ⅲ FUSIONの機能を活用した番組の制作・投影、小学校・中学校・高等学校等を対象とした学習投影を行います。

②基礎的な内容から最新情報まで反映した天文展示 【基本方針(1)】

プラネタリウムでの学習投影やアストロテラスでの天体観望会に連動した事前・事後学習の場として、市民にとって身近な「惑星」「太陽」「月」を中心とする天文現象の基礎的な内容をわかりやすく解説する展示を行います。また、その時々天文現象や天文に関する最新情報等、市民の興味関心をいっそう喚起する情報発信を社会状況・生活様式の変化に対応しながら実施します。

●実施事業

天文現象の基礎的な内容を解説する展示や、アストロテラスでの観測成果等の資料を活用した展示を実施します。また、家庭で楽しめるプラネタリウム動画等、星空観察に役立つ情報を SNS 等によって発信します。

(3) 科学教育分野

①市民協働の科学工作展示 【基本方針(1)】

子どもたちをはじめ市民の科学に対する興味関心を高めるため、市民との協働による教育普及事業で扱った科学工作物を展示します。その取組を継続することで、科学館の教育普及事業の周知や市民のボランティア活動参画へとつなげていきます。また、社会状況・生活様式の変化に対応した展示を行います。

●実施事業

教育普及事業で扱った科学工作物を取り上げ、工作物の作り方や科学的な原理を紹介する展示を行います。また、SNS 等と連動した工作紹介やデジタル技術を駆使した展示等、市民に伝わりやすい展示事業を進めます。

3-3 調査研究事業

川崎市は、東京都と横浜市に挟まれた南北に細長い地形であり、東京都との境には多摩川が流れています。市の北部では武蔵野の面影を残す雑木林があり、自然が多く残っている地域と、南部の工場地帯をはじめとする都市化が進んだ地域があります。

このように、自然と都市の要素を包含する川崎市において、自然と人間の共存を考えるうえでの重要な要件を見だし、考察を深めることを目的として、学芸担当職員を中心に自然環境の調査や川崎で見られる天体の調査を行います。また、科学教育を効果的に推進するため必要な調査研究を行います。

これまで職員や市民団体によって進められてきた調査研究の継承と計画的な拡大の検討が今後も必要であり、新しい調査活動に取り組む際の市民への周知を強化し、協働による調査研究を促進します。

(1) 自然分野

①川崎市域の生物調査 【基本方針(1) (4)】

川崎市域の動植物の生息状況を把握するため、現状を継続的に調査し、調査範囲を広げることで、より多くの生息データを集積・解析し、川崎市域の自然について全体像を明らかにします。調査の実施にあたっては、職員と市民団体や大学等の研究機関との協働にて実施します。調査結果については、科学館紀要等で公表します。

●実施事業

川崎市域の動植物の生息状況のモニタリング調査を継続し、調査範囲を広げます。調査結果については、広く市民に周知し、役立てることのできるように迅速に科学館紀要やホームページ等で公表します。

②自然について市民の興味関心を高める調査研究の実施 【基本方針(1)】

川崎市域の自然のうち特定の対象物を目的とした学芸担当職員による専門性の高い調査を行い、職員の専門性を高め、研究成果を市民に公表して川崎市域の自然に対する理解を深めます。

●実施事業

学芸担当職員の専門性を活かしながら、川崎市域の自然に関する調査研究を行います。調査結果については、科学館紀要やホームページ等で公表します。

(2) 天文分野

①天文現象についての調査研究の継続 【基本方針(1) (4)】

アストロテラスの望遠鏡や 40cm 反射望遠鏡を活用し、これまで長期にわたって行ってきた太陽表面や天文現象の観測の継続により、経年変化等を調査し、成果を広く市民に還元することで宇宙や天文への興味関心を高めます。

●実施事業

太陽表面観測や天文現象の観測、市民との協働による星の見え方調査等を継続して実施します。調査結果を科学館紀要やホームページ等で公表します。

(3) 科学教育分野

①科学について市民の興味関心を高める調査研究の実施 【基本方針(1) (4)】

実験や観察のための手引きや道具が詰まった教材である「ワクワクドキドキ玉手箱」を、より効果的に活用するための調査研究を科学ボランティアや市民団体との協働で取り組みます。教材開発や検証結果のフィードバックを蓄積し、学校での授業活用を踏まえた調査研究や、子どもたちに科学の楽しさを伝える教材・教具の改良を進めます。

●実施事業

子どもたちの興味関心を高める実験項目の調査研究を行い、「ワクワクドキドキ玉手箱」の教材開発や既存資料の整備・改良を行います。館内イベントや利用者アンケート等で、その効果を測定し、学校での玉手箱活用に対応するためのプログラム研究を行います。

3-4 教育普及事業

展示を活かした学習プログラムやフィールドワーク、実験等、体感・体験できる講座を提供し、実体験に基づいた生きた知恵を育てます。

市民の興味関心や年齢に応じてステップアップできる段階別の講座を提供することで、多様なニーズに応え、専門性を深めるための学習支援を行うとともに、科学教育等に関する研修を充実させ、各分野の人材の育成や、指導者の養成に努めます。

これまでの普及事業の形態を見直し、市民の生涯学習意欲に対応していく必要があります。また市民ボランティアのスキルアップは継続した課題であり、科学館で活躍する自然・天文・科学の市民ボランティアや団体の育成・研修等の支援を図ります。

(1) 自然分野

① 展示解説やワークショップ 【基本方針(2)】

展示解説やワークショップを開催することで、市民を生田緑地での自然観察へ誘い、市民が自然への興味関心を持つきっかけを作ります。

●実施事業

職員による展示解説や展示と連動したワークショップを実施し、展示から現地での観察へと誘います。また、収蔵資料を活かした教室や科学館のバックヤードツアー等、テーマを工夫しながら開催します。

② 川崎市域での自然体験活動 【基本方針(2) (3)】

野外においては、市民の生涯学習意欲に対応した多様な内容や形態の観察会等を通じて、市民が生田緑地を中心とした川崎市域の自然への理解を深め、生物多様性を知る機会を創出することで、SDGsへの関心を高めます。

●実施事業

生田緑地を中心とした川崎市域をフィールドとして、市民に自然への関心を深めてもらうことを目的とする観察会等を実施します。子どもから大人までの様々な年代が参加できる自然や動植物を見学・体験する観察会等や自然を題材にした教室等を実施します。

③学校支援 【基本方針(3)】

学習指導要領に対応した授業支援を目的として、学校のニーズを踏まえた生田緑地での観察等のフィールドワークの支援や、学習室・展示室を活用した学校支援プログラムを通じて、学校が平日に利用しやすい環境を整えます。

●実施事業

生田緑地の林や地層の観察等のフィールドワークを実物と展示を連動させた解説で支援し、フィールドワークの学習効果を高めます。また、季節に応じたフィールドワークや雨天時の解説プログラム等に加え、GIGA スクール構想等デジタル化の進む学校の ICT を活用して利用できる教材を開発し、提供します。

④人材育成 【基本方針(3)】

自然ボランティア等、博物館事業で協働する人材を育成し、生涯学習活動の充実を図ります。

●実施事業

市民による調査研究や観察会等に参画できるボランティアを育成し、スキルアップを支援するための研修会等を実施します。

(2) 天文分野

①市民や児童生徒が参加できるプラネタリウム番組制作 【基本方針(2) (3)】

星空を自由に演出できるシステムを活用し、市民が意欲を持ってプラネタリウム番組を制作できる教室や活動を実施し、参加者による企画投影や創作投影を実施していくことで、より多くの市民に、より深く天文やプラネタリウムに興味を持ってもらうきっかけを作ります。

●実施事業

市民参加によるプラネタリウム番組の制作や、小学生等を対象としたプラネタリウム番組制作教室を実施し、投影を行います。

②プラネタリウムを活用した教室・講座の開催 【基本方針(2)】

正確に星空を再現し、宇宙の様々な現象を再現できるプラネタリウムの機能を活用した多様な講座や講演会、各種教室を開催します。

●実施事業

光学式プラネタリウムとデジタル式プラネタリウムの特徴を活かした講座やシニア向けのプラネタリウム投影等、多様な対象に向けた投影や、外部講師による天文講演会を実施します。

③プラネタリウムを活用した他分野との融合イベント 【基本方針(4)】

プラネタリウムによる星空演出と、多彩な芸術との融合をめざし、音楽（演奏、歌唱、合奏）、語り、朗読、映像等、他の芸術分野とのコラボレーションした事業を、多様な事業主体と連携して企画・実施します。

●実施事業

プラネタリウムにおける星空の下で生演奏を楽しむコンサートや全天ドーム映像を活用し没入感や迫力が感じられるイベント等を実施します。

④アストロテラスでの天文体験 【基本方針(2)】

星空を身近に感じ、広く宇宙に親しんでもらうため、アストロテラスの望遠鏡を活用して、夜の観望会だけでなく、昼間の太陽や様々な天体を観測し、公開します。また、天文現象にあわせて公開時間を設定します。

●実施事業

夜間の定期的な天体観望会と、日中の太陽や恒星・惑星、日食・月食等の特別な天文現象の観察会を実施します。

⑤学校支援 【基本方針(3)】

学校の授業支援の充実をめざし、科学館の調査研究で得られた成果を還元し、天文学習に活用できるようにします。学習指導要領に対応したプラネタリウムと天体観察のできるアストロテラスを活用して、プラネタリウムの星空と本物の星空を融合させた天文学習を支援します。

●実施事業

学校を対象としてプラネタリウムやアストロテラスを活用し、科学館での効果的な学習を推進します。また、夜間に学校を会場とした天体観望会を実施します。

科学館で収集した天体に関する資料など、GIGA スクール構想等デジタル化の進む学校のICTを活用して利用できる教材を開発し、提供します。

⑥人材育成 【基本方針(3)】

天体観測ボランティア等、博物館事業で協働し、地域の天文指導者となる人材を育成し、生涯学習活動の充実を図ります。

●実施事業

天体観測に必要な技術や知識を持った天体観測ボランティアを育成し、スキルアップを支援するための研修会等を実施します。

(3) 科学教育分野

①市民の多様な学習ニーズに応える実験教室の開催 【基本方針(2) (3)】

子どもから大人まで多様な市民ニーズに応えられるように、初歩的な内容から専門的な内容まで、様々な年代が学べる科学教室を開催します。社会状況・生活様式を踏まえながら、子どもたちから科学指導者まで、年齢や学習段階の異なる人々がつながる場を創るため、館内イベント等の充実を図ります。

●実施事業

来館者がその場で科学体験ができるワークショップやサイエンスショーに加え、大人や親子が科学を体験できる教室を開催します。環境教育など SDGs や脱炭素社会を意識した教室やワークショップを実施します。

②21 世紀子どもサイエンス事業の推進 【基本方針(2) (3) (4)】

市民との協働で開発・整備してきた教材「ワクワクドキドキ玉手箱」と人材「科学ボランティア」を活かして、子どもたちや市民に科学の楽しさを伝えていきます。また、科学ボランティアの活動支援を通じて、科学を楽しむ文化を地域社会に広げ、根付かせていくことをめざします。産学官民の連携を強化することで、市民や科学ボランティア、教員、企業、研究者や大学生等、多様な人々の出会いと交流の場を創出します。

*「21 世紀子どもサイエンス事業」とは

川崎市で活動する産業・学校・市民団体と科学館が連携し、理科の好きな子どもや、科学に明るい市民を育てていく事業

●実施事業

市民に科学の楽しさを伝える教材「ワクワクドキドキ玉手箱」を活かして、多様な主体が参加、交流する科学イベントや、主に小学生を対象とした市内での出前科学実験教室を開催します。また、科学体験講座の指導者として活躍できる科学ボランティアを育成し、スキルアップを支援するための研修会等を実施します。

③学校支援 【基本方針(3)】

科学館の人材と資料を活用した理科教育への支援を通じて、子どもたちの科学への興味を高め、児童・生徒の科学館利用の促進につなげていきます。

●実施事業

学校の理科教育の充実に寄与することをめざし、GIGA スクール構想等、デジタル化の進む学校のニーズや教育課程を踏まえた理科教材及び科学館の所有する実物資料等を活かした学習プログラムを開発し、提供します。

科学館における教育普及事業

市民の多様なニーズに応えるように様々な教育普及事業を行っています。一部を紹介します。

サイエンス教室

自然・天文・科学の各分野で開催している事前申込制の講座です。小学生から成人まで、様々な年代を対象に実施し、市民ボランティアや科学館職員等が講師を担当しています。



生田緑地観察会

生田緑地の豊かな自然への理解を深めることをねらい、開催している屋外観察会です。植物や昆虫、野鳥、地層、里山の自然など、テーマ毎に特定非営利活動法人かわさき自然調査団の方々が案内しています。



星を見るタベ

月 2～4 回予定で開催している夜間観望会です。開催日の惑星や星座をプラネタリウムドームで紹介し、アストロテラスの天体望遠鏡を使って、実際の星空を楽しみイベントです。運営や解説の補助として天文サポーターとの協働で開催しています。



プラネタリウムワークショップ

プラネタリウムや宇宙に興味をもつ小学生を対象に、自らが考えたシナリオでプラネタリウムの番組を制作し、発表する教室を開催しています。投影の基本などを、外部講師や天文担当職員が指導する連続講座です。



サイエンスワークショップ

自然や科学工作をテーマとした当日参加型イベントで、未就学児も参加できる初歩的な講座です。科学ボランティアや科学館職員が指導しています。新たな生活様式を求められる状況になってからは、整理券方式・完全入替制で実施しています。



ワクワクドキドキ玉手箱出前科学実験教室

かわさき星空ウォッチング

子どもたちのため、館内イベントだけでなく、学校や地域団体からの要請を受け、市民団体が出前科学教室を実施します。かわさき星空ウォッチングでは、校庭等にアストロカー(下写真)が出動し、夜間観望会を開催します。



3-5 ネットワーク事業

生田緑地内の文化施設をはじめとする多様な団体や関係機関との連携により、市民にとって魅力的な活動を幅広く展開します。多様な団体や関係機関が、それぞれの専門性や地域性を活かして連携することで、相互補完や相乗効果による総合力を高めることをめざします。

事業による効果を検証しながら、科学館としての支援の在り方を検討し、連携事業のさらなる充実を図ります。生田緑地の各施設が連携した事業をさらに実施し、緑地の施設間の横断的な運営を促進し、利便性のさらなる向上を図ります。

(1) 展示・企画ネットワーク 【基本方針(4)】

市民団体や研究機関・企業と連携・協働することで、川崎市の特性を活かした展示や教室等を実施します。川崎市域の博物館として、自然科学の文化的な地域貢献を実現します。

<主な関連団体>

- ・市民団体、市民有志
- ・大学、研究機関
- ・関連企業、施設
- ・関係行政機関
- ・博物館

●実施事業

生田緑地周辺の大学機関や県内社会教育施設等と、館内展示の準備段階から企画内容や運営方法について協議を重ね、科学館でのノウハウを活かした展示や教室を開催します。

(2) 収集保存・調査研究ネットワーク 【基本方針(4)】

調査対象に関する情報や専門知識を有する研究機関、市民団体、関連行政機関等と連携・協働することで、学芸担当職員の専門性を高めるとともに、川崎市域の自然環境、生物の生息等の把握や天文現象の調査研究を進めます。

<主な関連団体>

- ・市民団体、市民有志
- ・大学、研究機関
- ・関連企業、施設
- ・関係行政機関
- ・博物館

●実施事業

研究機関や市民団体、関連行政機関等と資料の相互提供や情報共有を通じて、連携・協働体制による調査研究を計画的に進め、協働による成果を公表します。

(3) 学習支援ネットワーク 【基本方針(3)】

教職員や市民団体等と連携・協働することで、様々なニーズに対応した研修プログラムを実施し、学習・交流の輪を拡大するとともに、学校団体の科学館利用を促進します。

<主な関連団体>

- ・小・中・高等学校、大学
- ・市民団体、市民有志

●実施事業

教職員研修では、科学館のもつノウハウを伝えたり、市民団体連携のプログラムを実施したりと、内容を工夫して推進します。学習支援の一つとして、市内公立学校理科作品展や中学校連合文化祭を共同で開催します。また、博物館実習等による人材育成支援も行います。

(4) 地域振興ネットワーク 【基本方針(4)】

生田緑地のにぎわいが周辺地域のにぎわいにつながることをめざし、生田緑地を活用したまちづくりに参加・協力するとともに、生田緑地の自然等に関する知識や科学館のノウハウを活かした専門的な支援を行います。

<主な関連団体>

- ・地域の町会、商店会
- ・生田緑地内施設
- ・市民団体、市民有志
- ・大学、研究機関
- ・関係行政機関

●実施事業

区民祭などの行事を地域の団体や関係機関と協力し、生田緑地や科学館を活用した事業を企画・実施していきます。

(5) 生田緑地内ネットワーク 【基本方針(4)】

生田緑地内の各施設と連携・協働することで、相互の施設の特性を活かし、ジャンルを超えて市民が楽しめる事業を実施するとともに、回遊性を高め生田緑地全体の魅力の向上をめざします。

<生田緑地内施設>

- ・川崎市立日本民家園
- ・川崎市岡本太郎美術館
- ・生田緑地整備事務所
- ・生田緑地ビジターセンター
- ・川崎国際生田緑地ゴルフ場
- ・川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム

●実施事業

日本民家園との「セタイイベント」等、生田緑地内各施設の特性を活かした事業や市民向けイベントを、共同で企画・実施します。

4 管理運営計画

4-1 運営に係る基本的な考え方

生田緑地のめざすべき将来像を示す構想として策定した「生田緑地ビジョン」の基本方針である「効果的・効率的に管理・運営する」に掲げる「施設の魅力を最大限に発揮するための横断的管理運営体制の確立」に向けて、生田緑地及び生田緑地内に立地する岡本太郎美術館、日本民家園及び科学館について同一の事業主体により横断的に管理するため、平成25年度から指定管理者制度を導入しました。

科学館の設置目的や運営に係る基本理念、基本方針等に基づき、民間の技術力、経営的能力の活用等により施設間の連携強化と管理運営の効率化を図るとともに、様々な主体が参加する生田緑地マネジメント会議との連携により、貴重な自然環境を保全・活用しながら科学館の魅力向上を図り、施設運営を行います。

4-2 業務の範囲

科学館の基幹的な業務である統括業務及び学芸業務並びに関連業務については、引き続き市直営で行います。科学館の施設運営及び管理業務については指定管理者が行うこととし、公の施設の管理者として市民の公平な利用に資するとともに、利用者に対して誠実に対応することとします。

4-3 開館形態

利用者の多様なニーズ等に対応するため、次のとおり設定します。

(1) 開館日時

①開館日

次の休館日以外を開館日としますが、事業開催や施設管理等のために必要と認めるときは臨時開館日・臨時休館日を設定します。

休館日	例外等について
毎週月曜日	月曜日が国民の祝日に関する法律に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときはその翌日
月曜日以外の休日の翌日	休日の翌日が土曜日、日曜日又は休日に当たる場合を除く。
年末年始	12月29日から翌年の1月3日まで

②開館時間

開館時間は午前9時30分から午後5時までとしますが、事業内容に応じて開館時間を延長する等、柔軟に運営します。

(2) 利用料金

①入館料及びプラネタリウム観覧料

多くの方が気軽に繰り返し利用できるよう、入館料は無料とします。プラネタリウムの観覧については有料とし、適正な料金設定を行います。

ただし、学齢に達しない利用者及び小学校・中学校・中等教育学校の前期過程・特別支援学校その他これらに準じる教育施設に在学する利用者は無料とし、高校生・大学生・65歳以上の利用者及び20人以上の団体利用は、一般料金より低廉な料金を別に設定します。

また、教育課程に基づく教育活動としての利用や、児童福祉施設の活動としての利用、川崎市在住の高齢者、身体障害者手帳等の交付を受けている者及びその介護者等の利用については、料金を減免します。

②資料の特別利用に係る料金

資料等の特別利用（撮影や模写等）については、適正な料金を設定します。

③事業への参加費

実験教室等の事業への参加費については、保険料等の実費分として設定します。

4-4 危機管理

利用者の安全・安心に資するため、災害等に備えた対策及び非常時における対応を適切に行います。

(1) 災害等への対応

①事前の対応

- ・安全管理を徹底し事故防止に努めるとともに、日常の警備業務及び警察、消防との連携により防犯、防災に努めます。
- ・自然災害等に対応するため、指定管理者についても市の動員体制に準じたマニュアルを都度更新し、従事者に周知徹底を図ります。
- ・法令に基づき、避難経路の確保等を適切に行うとともに、非常時には施設内の利用者を安全に避難させることができるよう、誘導マニュアルを都度更新します。
- ・消防法に基づき管理権原者及び防火管理者を配置し、計画的に消防訓練や避難訓練等を行い緊急時の対応に備えます。
- ・AEDを学習棟に設置し、適切に管理します。また、適宜研修等を行い、緊急時の使用に備えます。
- ・感染症の流行に備え、適宜対策マニュアルを作成し、関係者に周知徹底を図ります。
- ・風水害の発生が予測される場合は、事前にパトロールを行い、枳の清掃等必要な備えを行います。

②発生時の対応

- ・警報や特別警報が発表されるなど、災害により利用者の安全が脅かされる事態が予測される場合は、開館・事業開催等を中止又は停止します。
- ・感染症の大きな流行が発生し、利用者の安全が脅かされるおそれがある場合は、開館・事業開催等を縮小、中止又は停止します。また、感染拡大防止のため、消毒液の設置、人流のコントロール等、必要な対策を速やかに、また適切に行います。
- ・利用者等の安全確保を最優先の上、二次災害に十分留意しながら施設や設備の緊急点検を行います。破損や事故等、緊急に対処する必要が生じた場合は、初動対応及び応急処置を行い、損壊等の状況により施設の利用を制限します。

(2) 災害時の機能

生田緑地は、川崎市地域防災計画における災害時の広域避難場所として指定されています。大規模な災害が発生し科学館を使用する必要性が生じた場合は、緊急に利用者等の生命・身体・財産を保護するため、可能な限り利用者や近隣住民の安全確保に努めるとともに、指定管理者と連携し管理を継続します。

4-5 施設の管理運営

科学館の魅力を積極的に発信するとともに、利用者にとってきめ細かな配慮の行き届いた施設となるよう取り組みます。

(1) 広報計画

科学館の活動や事業内容について、利用者の必要としている情報を速やかに発信するとともに、市内・市外を問わず認知度を向上させ、科学館のブランド力向上につながるよう、戦略的かつ効果的な広報を積極的に実施します。また、マスコットキャラクター「かわさきぴりん」を効果的に活用し、科学館の魅力の発信に努めます。

①各種成果物等の公表・発行

科学館の様々な活動内容や成果を広く発信するとともに、利用者の学習・研究等に資するため、研究紀要、年報等の定期刊行物をホームページで公表するとともに、生田緑地の自然や天文等に関する解説書や研究報告書、学習教材等を発行します。

②各種媒体を活用した広報活動

科学館の事業内容等を速やかに広く周知するため、SNSやチラシ・ポスターなどを活用したプロモーション、各種取材メディアへのきめ細かな情報提供等、多様な媒体を活用します。

③生田緑地の魅力発信と一体化した効果的な情報発信

生田緑地及び緑地内施設の一体管理を活かして、生田緑地の魅力発信と一体化した科学館の広報活動を行うことで、生田緑地や各施設それぞれの利用者への相乗的な情報提供を可能とし、効果的な広報活動を展開します。広報活動にあたっては、学芸部門との連携・協力を綿密に行い、広報内容の質を高めます。

(2) 科学館の魅力を高めるサービス展開

①職員等の接遇及び資質の向上

利用者にとって身近な存在で気軽に訪れることのできる科学館とするため、利用者への接遇を向上させるとともに、質問等にもいつでも丁寧に応えられるよう、資質の向上に努めます。

②科学館の魅力を高めるためのカフェテリア、ショップのサービス向上

カフェテリアやショップと連携し、オリジナル商品や科学館の出版物を販売するとともに、科学館の設置目的等に沿った運営を行うよう、必要に応じて経営主体と協議し、科学館の魅力を高めるサービスを提供するよう努めます。

③展示室以外のスペースを活用した学習サービスの提供

エントランスホールやプラネタリウムドーム壁面等、展示室以外のスペースを活用し、自然科学にあまり関心がない利用者に対しても科学館の魅力や楽しさが伝わるよう、長時間ゆっくり楽しく過ごす中で、自然科学の知識に触れて興味を喚起できるような仕掛けや環境づくりに努めます。

④学校団体の利便性に配慮したサービスの向上

学校利用では、雨天時に館内での飲食可能場所を提供する等、利便性の向上を図ります。

⑤他施設との連携によるサービスの向上

緑地内他施設と相互利用できる共通利用券の発行や、市内他施設と組合わせた見学ツアーの実施等、利用者の博物館利用を広げるサービスを展開します。

⑥利用手続きにおける利便性の向上

教室や講座等の事業への申し込み方法や、プラネタリウム観覧券の決済方法の多様化を図り、利用者の利便性の向上を図ります。

(3) 多様な利用者への配慮

①バリアフリー及びユニバーサルデザインの推進

誰にとっても快適で安全・安心な施設であるため、引き続き科学館全体のバリアフリー及びユニバーサルデザインを推進します。

②外国人利用者に配慮した案内情報の提供

外国語対応のパンフレットの作成など、外国人利用者に配慮した案内情報を提供します。

5 進行管理

科学館の運営については、基本理念の達成や市民の満足度の向上に向けて自ら点検・評価する姿勢で臨み、専門部会において市民代表、学識経験者、家庭教育関係者等の多様な視点を導入した評価を行い、その成果を運営に反映させます。

(1) 計画に基づく事業実施と点検

第2期運営基本計画に基づいて事業ごとに年次計画を作成します。実施にあたっては、実施回数や利用者数とともにアンケートの結果も踏まえ、年度内の適宜点検により進捗状況を把握し、適切な進行管理を行います。

(2) 事業評価と周知

①自己評価

入館者数やホームページのアクセス数等の数値データや事業担当職員による事業評価、過年度との比較等によって自己評価を行います。また、館運営全体に対する利用者アンケートや事業ごとの参加者アンケート、問合せ件数とその内容の分析等による市民の評価の把握、メディアにとりあげられた頻度やその内容の分析等、多様な視点を評価に反映させます。また、評価にあたってはできるかぎり定量化し、運営の状態を可視化することに努めます。

②第三者による評価

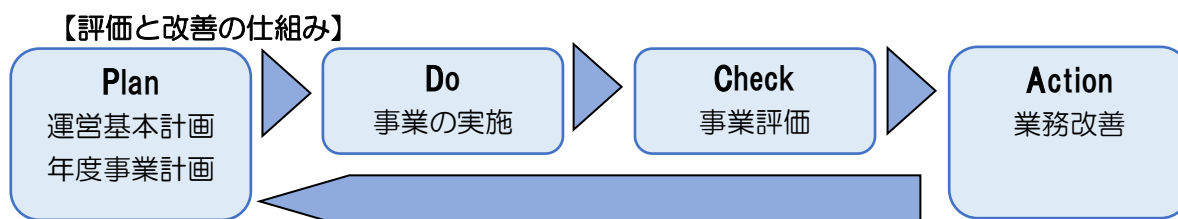
自己評価は専門部会にはかり、事業の目標達成状況に対する助言・評価を受けます。平成25年度から指定管理者制度が導入された管理運営部門については、外部委員で構成される民間活用事業者選定評価委員会による評価を実施します。

③評価の周知

確定した事業評価は、ホームページで公表し、広く市民に周知します。

(3) 評価に基づく取組の見直し・改善

事業評価については短期で改善できるもの、中長期的な取組が必要とされるものを整理し、次年度以降の取組内容の見直し・改善に活用します。



第2期川崎市青少年科学館運営基本計画 市民ヒアリングに関する資料

第2期川崎市青少年科学館運営基本計画の策定にあたり、利用者の視点で事業や運営の在り方を検討する目的で、青少年科学館への印象や要望などを小中学生から成人、教職員を対象としたアンケートを実施しました。

【調査について】

実施アンケート	対 象	調査方法
来館者対象アンケート	科学館来館者	紙面記入によるアンケート調査
成人対象アンケート	館内イベントを利用した成人	紙面記入によるアンケート調査
児童対象アンケート	市内の小学校5年生	GIGA 端末を活用したアンケート調査
教職員対象アンケート	児童アンケート対象校の教職員	GIGA 端末を活用したアンケート調査
市民ヒアリングワークショップ	市内及び近隣在住の小中学生	事前申込制によるワークショップ 館内展示やプラネタリウム等を体験した後、科学館への意見交換をグループワークにて実施

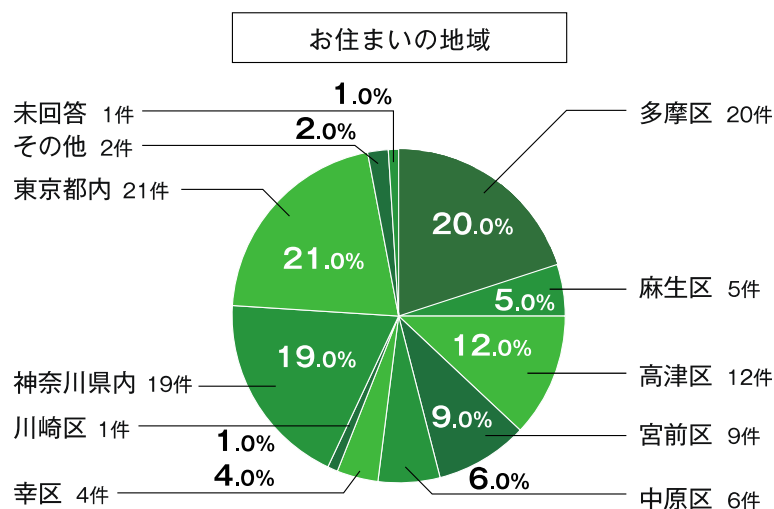
科学館を利用する来館者に関するアンケート調査

実施日：令和4年7月23日（土）

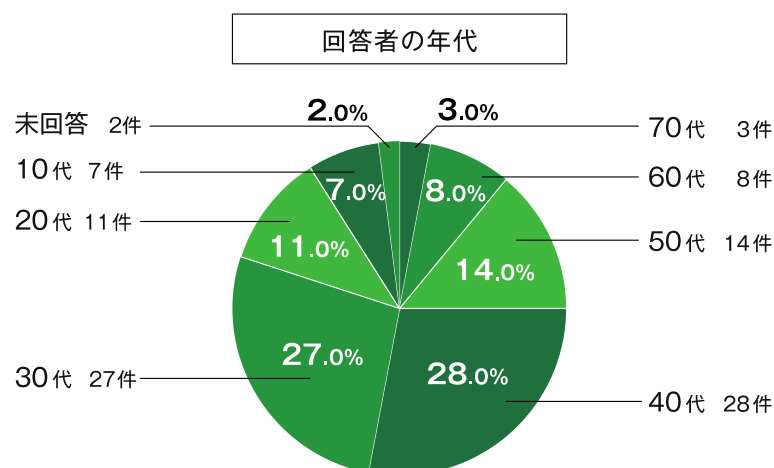
対象：来館者

回答件数：100件

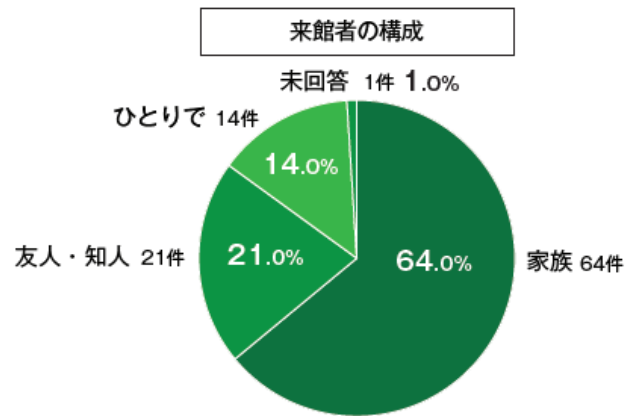
① お住まいの地域はどちらですか。



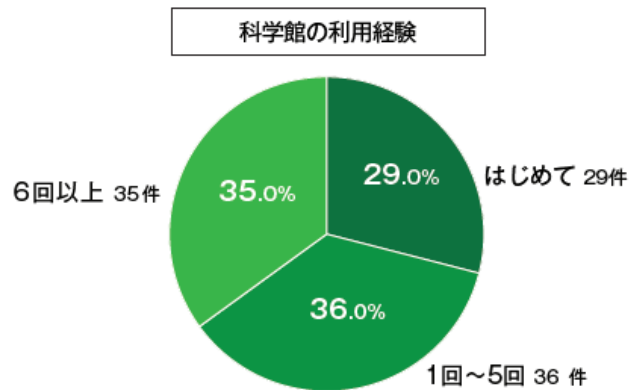
② 年代をお答えください。



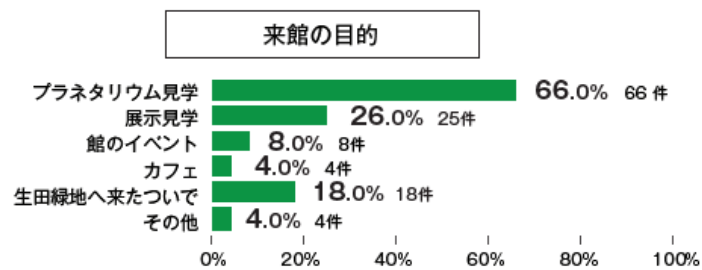
③ 本日は誰と来館しましたか。



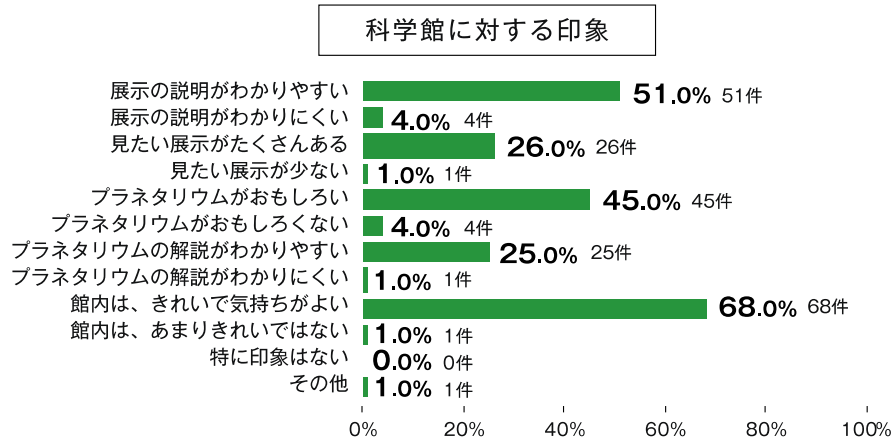
④ 今までに科学館をどのくらい利用されたことがありますか。



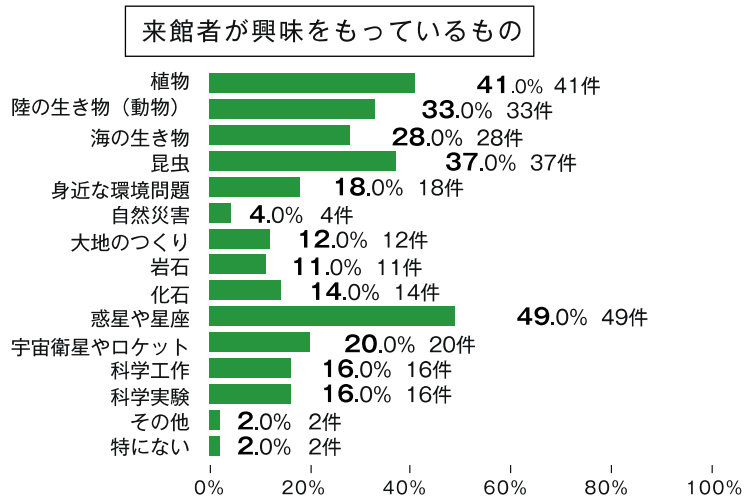
⑤ 本日の来館目的を教えてください。(当てはまるもの全て)



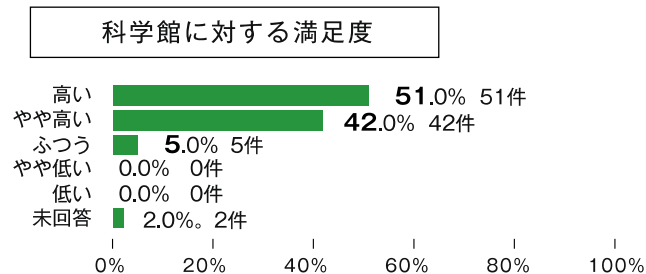
⑥ かわさき宙と緑の科学館の印象を教えてください。(最大3つまで)



⑦ 自然・天文・科学分野で興味があることを教えてください。(最大3つまで)



⑧ 本日の来館の満足度を、お教えてください。



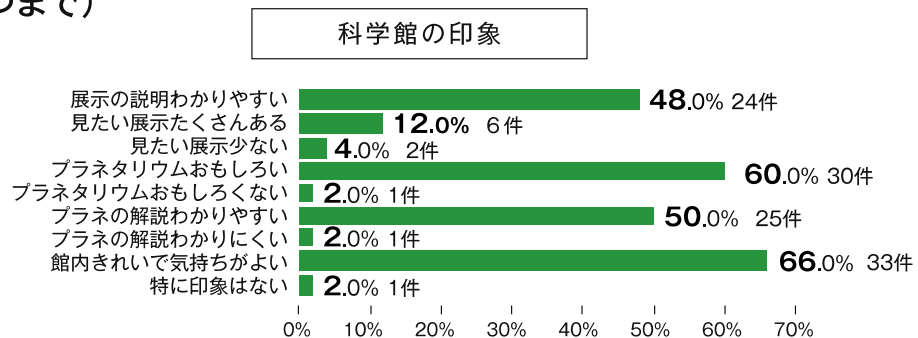
青少年科学館市民ヒアリング 成人対象アンケート集計結果

実施期間：令和4年8月7日（日）～28日（日）

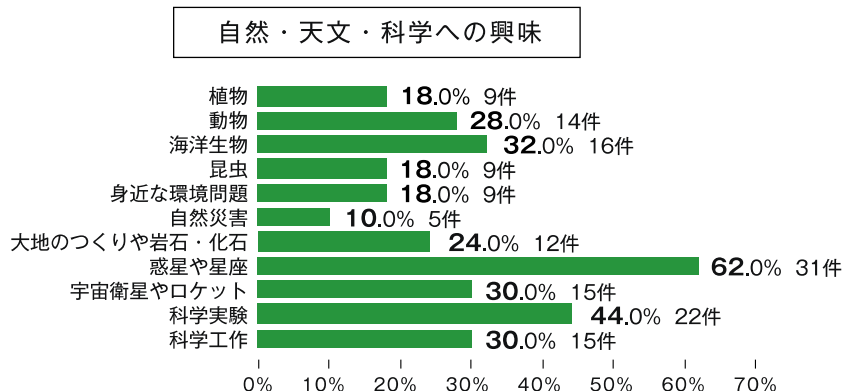
対象：イベントで来館された成人の市民・利用者

回答件数：50件

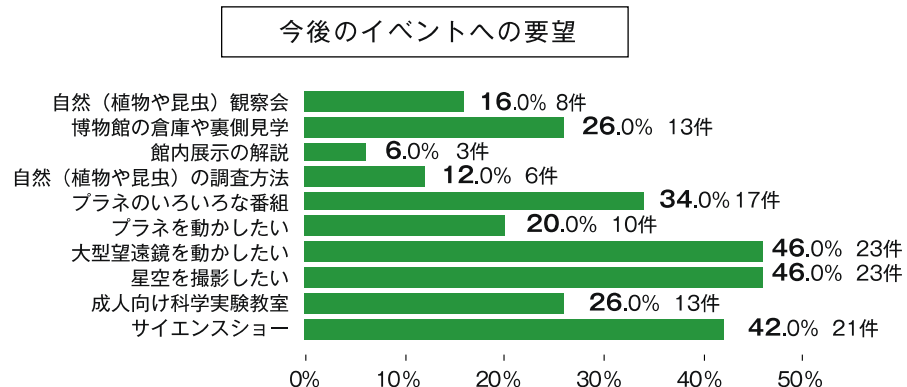
① かわさき宙と緑の科学館の特に印象に残ったことを教えてください。（最大3つまで）



② 自然・天文・科学で興味があることを教えてください。（最大3つまで）



③ かわさき宙と緑の科学館で、やってみたい・参加してみたいことを教えてください。（最大3つまで）

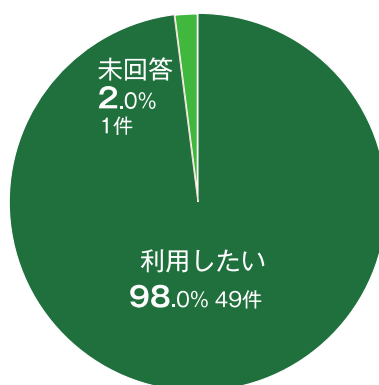


④ 今後、参加してみたいこと（③以外の自由記述）。

- ◆ 天体観測、撮影にチャレンジしたい。
- ◆ 貝について学びたい。
- ◆ 望遠鏡の製作をやってみたい。
- ◆ 大型望遠鏡で月を見てみたい。

⑤ 今後も「かわさき宙と緑の科学館の利用」をお考えでしょうか。

今後の利用予定について



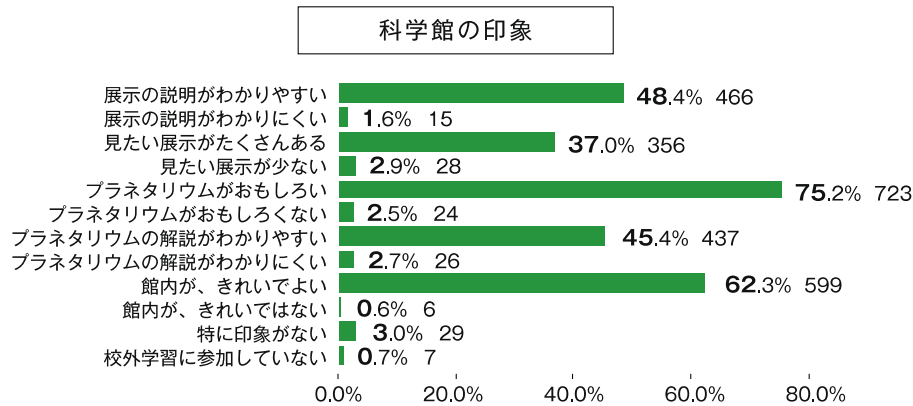
青少年科学館市民ヒアリング 児童対象アンケート集計結果

実施期間：令和4年6月7日（火）～6月17日（金）

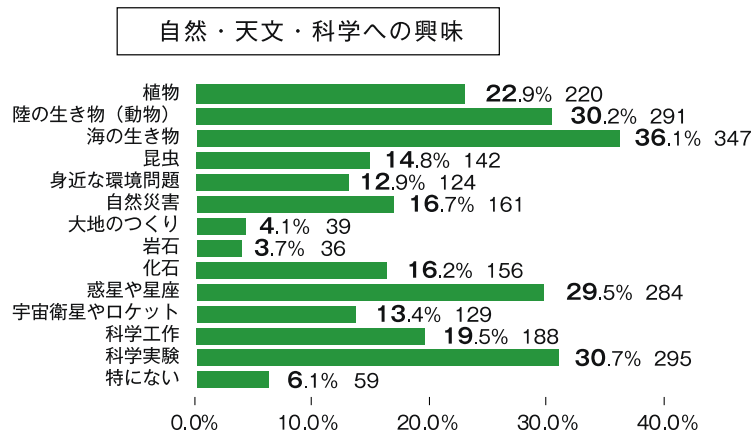
対象：令和3年度に科学館を校外学習で利用した小学校4年生（調査時5年生）を市内7区から2校ずつ抽出

回答件数：962件

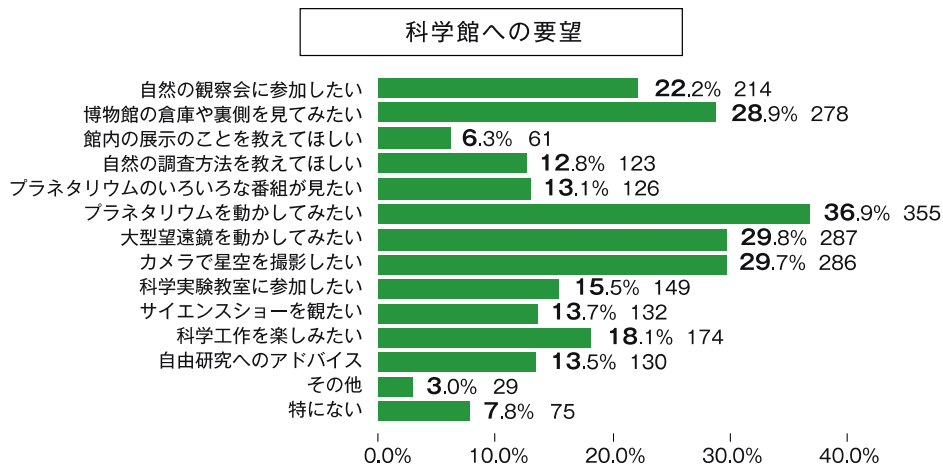
① かわさき宙と緑の科学館の印象を教えてください。（最大3つまで）



② 自然・天文・科学分野で興味があることを教えてください。（最大3つまで）

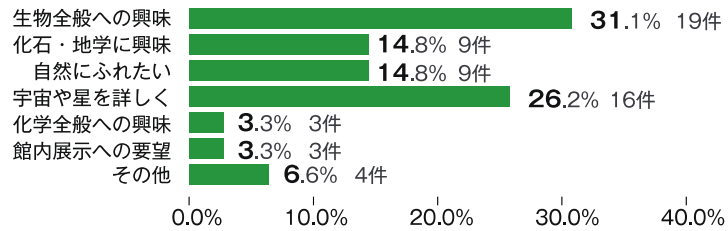


③ 今後、参加してみたいことを教えてください。（最大3つまで）



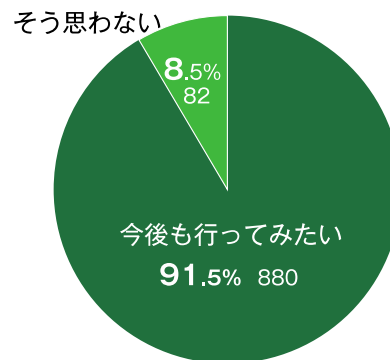
④ 他には、どのようなことをやってみたいですか。(自由記述)

科学館への要望 (自由記述)



⑤ 今後、かわさき宙と緑の科学館に行ってみたいですか。(単一回答)

今後の科学館利用



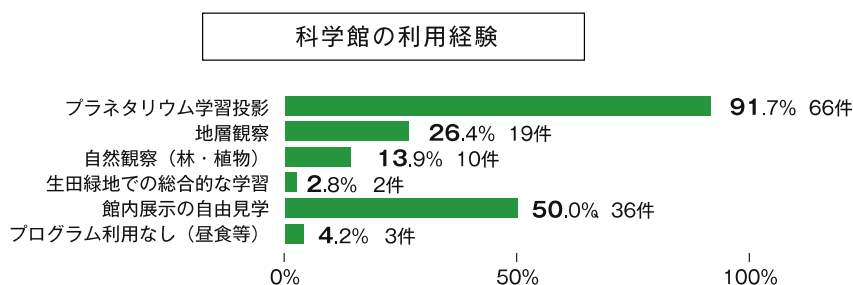
青少年科学館市民ヒアリング 教職員対象アンケート集計結果

実施期間：令和4年6月7日（火）～6月17日（金）

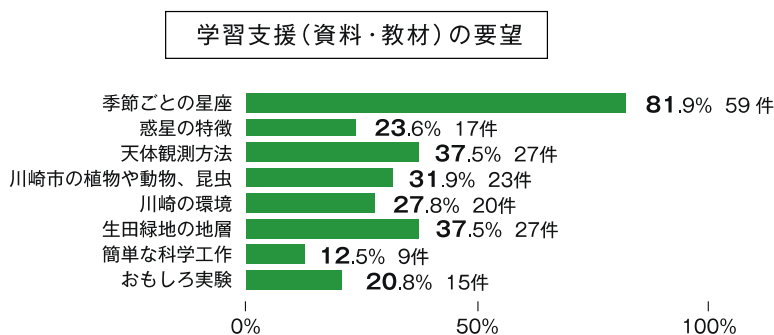
対象：令和3年度に青少年科学館を校外学習で利用した小学校教職員を市内7区から2校ずつ抽出

回答件数：72件

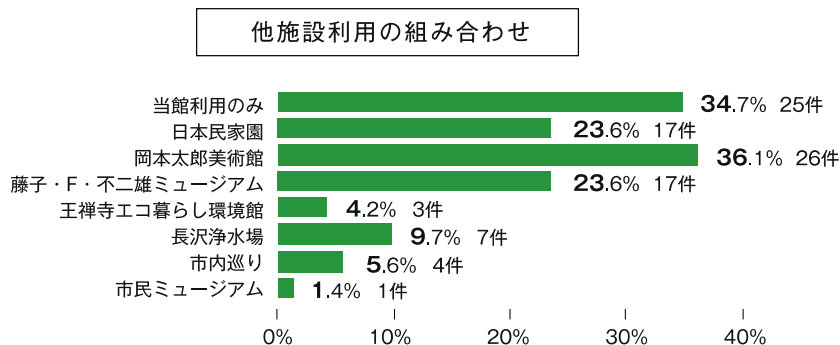
① 青少年科学館は、どのように利用されましたか。(複数回答可)



② 学習支援として、どのような教材や資料の提供を要望しますか。(最大3つまで)



③ 当館の他に、どのような施設の利用を組み合わせたでしょうか。(複数回答可)



科学館、いろいろ未来ワークショップ 小学生・保護者アンケート

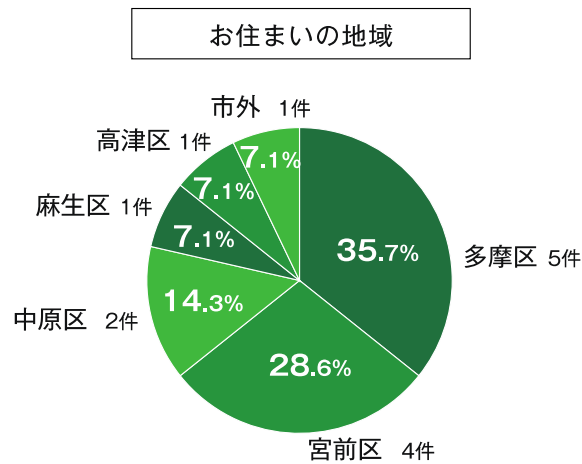
実施日：令和4年7月10日（日）

対象：小学校3～6年生

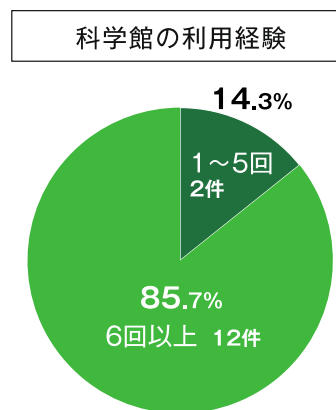
回答件数：小学生14件 保護者13件

小学生 14件

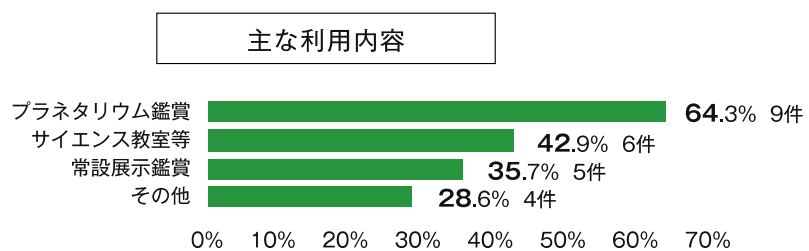
① お住まいの地域はどちらですか？



② 今までに科学館をどのくらい利用されたことがありますか。



③ 主にどのようなことで、科学館を利用されましたか。



④これから科学館でやってみたいことを教えてください。

プラネタリウム	<ul style="list-style-type: none"> ・「星を見るタベ」のアストロテラスに参加したい。 ・プラネタリウムを何度も観たい。 ・プラネタリウムを双眼鏡を使って観たい。
実験や科学原理	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとたくさんの実験をしたい ・重力について知りたい。
生き物の剥製	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとじっくり生き物の剥製を見てみたい。 ・収蔵庫の標本を、展示コーナーでも見てみたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・展示室にゲームができるところがあるといい。 ・プラネタリウムを動かしてみたい。

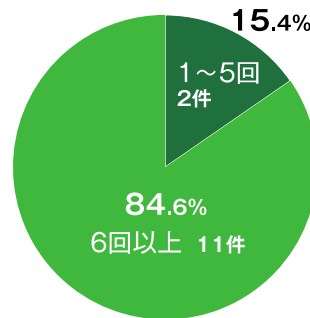
⑤自由感想（こんな科学館になってほしい。来館して感じたこと。など）

プラネタリウムの提案、感想	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムで虫などの一生なども流してほしい ・プラネタリウムの裏側を見せてほしい。 ・天文の知らないことをたくさん知ることができた。
展示室・収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・何回も来ているけど、自然がたくさんあっておもしろかった。 ・実際の動物標本があるので分かりやすい。 ・バックヤードがすごかった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・「たくさん意見や視点があるんだなあ」と思った。 ・楽しかったから、今後も続けてほしい。

保護者 13 件

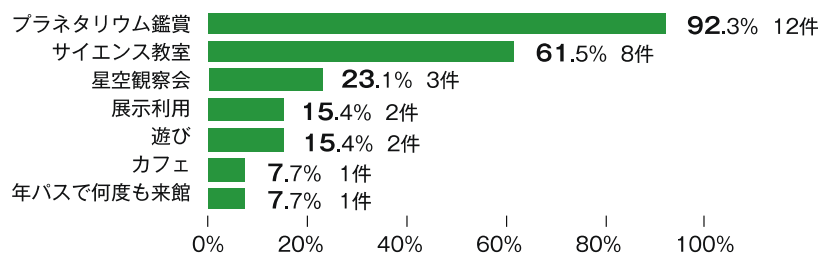
① 今までに科学館をどのくらい利用されたことがありますか。

科学館の利用経験



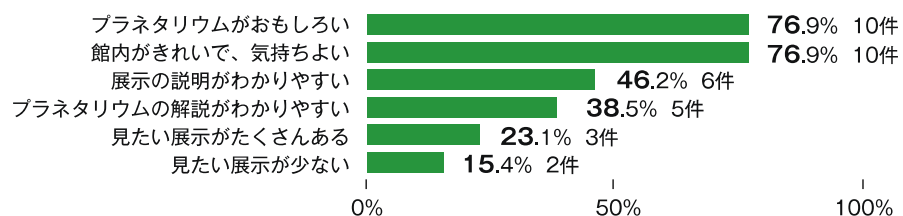
② 主にどのようなことで、科学館を利用されましたか。

主な利用内容



③ かわさき宙と緑の科学館の印象を教えてください。(最大3つまで)

科学館の印象



④今後の科学館に期待すること

<p>プラネタリウム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムの解説が楽しい。 ・フュージョン、子ども用、一般用、どれも楽しく飽きない。 ・毎月プラネタリウムの番組が変わるたびにきている。
<p>展示</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・望遠鏡でいろいろ見たい。以前太陽のコロナが見られたのがよかった。 ・展示の内容のさらに奥深い解説教室とか、子どもと一緒にききたい。 ・たぬき、ハクビシンの発見ボードなど、近年の情報があると良い。 ・プラネタリウムやワークショップはとても良い。 ・展示は季節によって内容を変えたり、視覚的な工夫があるとよい。
<p>ワークショップ等のプログラムのプログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も子どもが興味をもつようなワークショップを積極的に取り入れてほしい。 ・引き続きサイエンス教室の開催をお願いしたい。 ・研究者が子ども向けに最新の研究を紹介するサイエンスカフェのような取組に参加してみたい。
<p>設備・運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムのネット予約ができると良い。 ・人気が高く希望者が多い企画は複数回実施を希望する。 ・中高生や大人になっても参加できるワークショップを開催してほしい。 ・子ども料金が無料で本当に助かる。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に科学を楽しんだり、触れたりできる科学館でいてほしい。 ・子どもが独立したらボランティアになりたい。 ・自然の調和が出来る科学館として、いつまでもあってほしい。 ・親の私も小学生の時にきているので、なつかしさと新しさを感じる。 ・10年以上前から通っている。

科学館、いろいろ未来ワークショップ 中学生・保護者アンケート

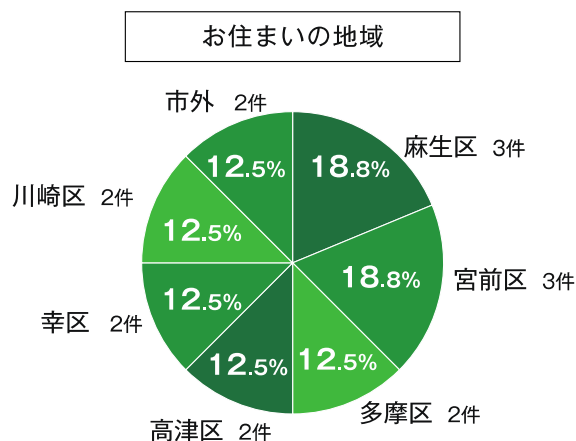
実施日：令和4年7月31日（日）

対象：中学校 1～3年生

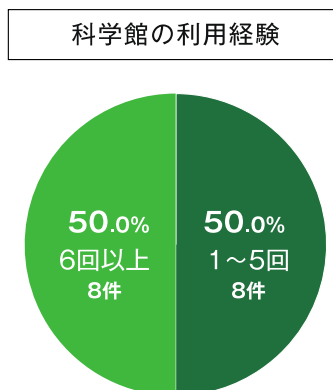
回答件数：中学生 16件 保護者 9件

中学生 16件

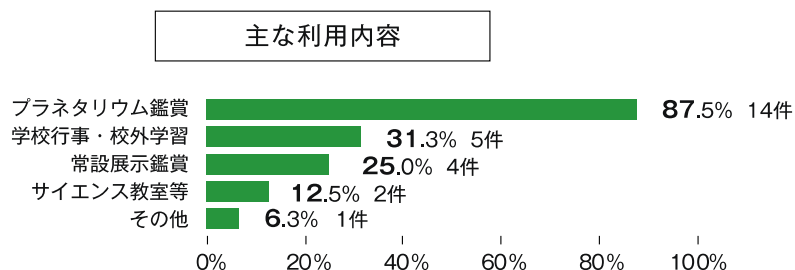
① お住まいの地域はどちらですか。



② 今までに科学館をどのくらい利用されたことがありますか。



③ 主にどのようなことで、科学館を利用されましたか。



④これから科学館でやってみたいことを教えてください。

プラネタリウム や天体	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムの仕組みを見てみたい。 ・プラネタリウムで銀河の中心の巨大ブラックホールを見てみたい。 ・ミニプラネタリウム作り。 ・区民祭で投影したい。 ・宇宙について深く学ぶ講座。
天体観望会	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易望遠鏡を作って、夜の星を観察したい。 ・科学館に泊まって夜空を観察したい。
触れる展示	<ul style="list-style-type: none"> ・隕石や化石に触れてみたい。 ・化石や地層に触れてみたい。 ・生き物との触れ合い。
自然や生田緑地 との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市の自然についてもっと調べたい。 ・地学、物理、化学などのルームも作れば、楽しさが上がると思う。 ・昆虫などを実際にとる。 ・生田緑地のジオラマ。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫にあるものを全て見てみたい。 ・いろいろ体験して、スタンプを集めてグッズがもらえるイベント。

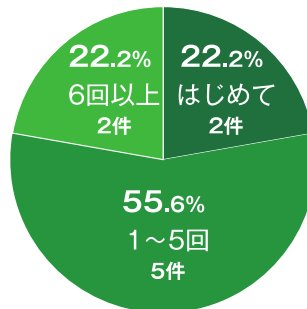
⑤自由感想（こんな科学館になってほしい。来館して感じたこと。など）

収蔵庫の 感想や印象	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムで虫などの一生なども流してほしい。 ・プラネタリウムの裏側を見せてほしい。 ・天文の知らないことをたくさん知ることができた。
プラネタリウム	<ul style="list-style-type: none"> ・何回も来ているけど、自然がたくさんあっておもしろかった。 ・実際の動物標本があるので分かりやすい。 ・バックヤードがすごかった。
自然展示	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリーのコーナーでスズメバチの巣があったこと。 ・カラスにも黒色以外にもいたこと。
身近な科学館	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市に近い地域の自然について調べる。 ・すぐ側にこんなにいい緑地と科学館があっという間と思った。 ・初めての体験をたくさん出来たので、楽しかった。 ・未来のことをできて楽しく、大人になっても行きたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生向けの企画をたくさんやってもらえると嬉しい。

保護者 13 件

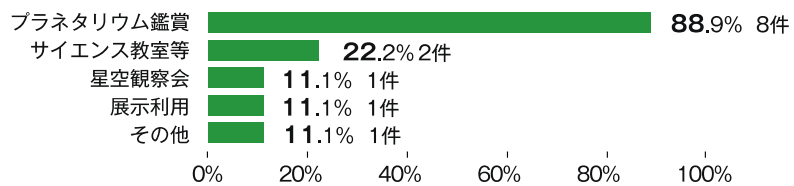
① 今までに科学館をどのくらい利用されたことがありますか。

科学館の利用経験



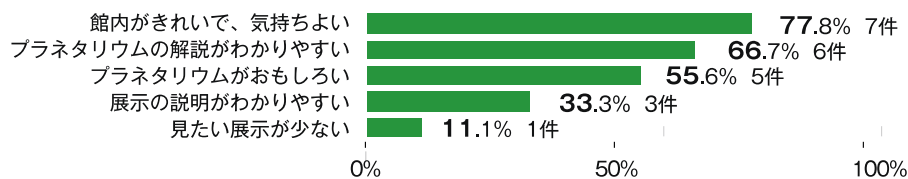
② 主にどのようなことで、科学館を利用されましたか。

主な利用内容



③ かわさき宙と緑の科学館の印象を教えてください。(最大3つまで)

科学館の印象



④ 今後の科学館に期待すること

中高生向けのイベント開催	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の体験イベントを充実してほしい。 ・理科実験など多くのイベントを開いてほしい。 ・中高校生の宇宙に関するサークルやワークショップがあるとよい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア等もやらせてもらえると嬉しい。

第2期川崎市青少年科学館運営基本計画

令和5（2023）年3月

発行 川崎市

編集 川崎市青少年科学館（かわさき そら 宙と緑の科学館）

〒214-0032 川崎市多摩区柁形7-1-2

電話 044-922-4731



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

